

2020年5月13日、ジュネーブ

協同組合と社会的連帯経済組織への連帯メッセージ

日本の協同組合運動の皆様へ

今年創設100周年を迎えた [ILO 協同組合ユニット](#)からご挨拶申し上げます。

このような不確実性の時に、協同組合や社会的連帯経済（SSE）など私たちの仲間の皆様へ、心からの激励の意を伝えたいと思い、この手紙をお送りしています。

ILOの企業局が最近発表した[概況報告](#)が示すように、世界的な新型コロナ感染拡大とその社会的・経済的影響は、仕事の世界に衝撃を与えています。世界中の企業が操業を停止・縮小せざる得なくなり、その結果、生産が途絶し、多くの商品やサービスの需要が失われ、労働者や雇用は甚大な被害を受けています。世界中で何百万人もの働く人々が仕事を失い、自分自身とその家族を支えることができなくなっています。また、医療サービスを提供し、商品やサービスの継続的な提供を確保することで、自らの健康を危険にさらしている労働者もいます。そして、在宅勤務をしながら、幾つもの責任のバランスを取っている人もいます。

社会正義、民主主義、連帯、社会的責任に真摯に取り組み、他者を思いやることは、これまで以上に必要とされています。世界中の協同組合や広義のSSE組織は、新型コロナ感染拡大への対応を通じて、協同組合・SSEモデルの妥当性を実証しています。私たちは、[協同組合ユニットのウェブサイト](#)で幾つかの新たな実践例を紹介しています。日本の協同組合運動の皆様がCOVID-19に関して直面している課題や、実施しているCOVID-19対応策についても、ぜひ情報提供いただければと思います。皆様からの情報をお待ちしています。

(coop@ilo.org)

そして、この試練の時にこそ、私たちは協同組合と広義のSSE運動との連帯を再度、確認したいと思います。私たちが過去の多くの[危機的状況](#)において経験したように、協同組合やSSE組織が、緊急事態後も、被害を受けた国々の中・長期的な復興段階を通じて、その役割を果たすことを確信しています。協同組合の価値や原則こそが、新しい日常（new normal）にとどまらず、より良い日常（better normal）への変容を導くことができるのです。

連帯のもとに。

国際労働機関（ILO）

企業局

協同組合ユニット